

Bonjour tout le monde!

皆さんこんにちは。大屋あかりです。

私は昨年8月下旬から6月下旬までフランスの北部にある Lille (リール) という町に10か月滞在し、復学に向け準備をしているところです。

今回は最後の留学だよりということで、私のフランスでの日常生活を、そしてその生活の中で気づいたこと・考えた事などを中心に書いていこうと思います。

3月初旬は私を受け入れているフランスの留学団体が主催した、パリのディズニーランド&スタジオへの旅行に2泊3日で行ってきました。新しく友達ができ一緒にパーク内を回る事が



出来てとても楽しかったです！フランス語はもちろん、英語で会話している人もいれば、各々の母国語で話しているのも聞こえてくる環境はやはり新鮮です。



4月の初旬、イタリア語のクラスでイタリアへ1週間行きました。

バスで片道18時間はきつかったです・・・。Ravenna (ラヴェンナ), Parma (パルマ), Comacchio (コマッキオ), Bologna (ボローニャ:すべて北部~中北部イタリア) という町を巡りました。イタリア語で友達と通行人に美味しいジェラート屋さんを聞いたのですが、なぜかいつも英語で答えが返ってきました。



4月中旬から5月の頭まではまたまたバカンスで、今回は親戚の別荘のある Hardelot (アルドゥ

ロ: イギリス海峡に面した海辺の町) というところへ行きました。まだ寒かったので海に入ることは出来ませんでしたが、砂浜を裸足で散歩したり、海産物の市場に行ったりしました。ホストファミリーと過ごした何気ない時間は一生褪せることのない大切な思い出です。



5月は、高校で日本とフランスの学校生活の違いなどをプレゼンしました。日本に興味がある人に加え、この1年で知り合ったたくさんの方が聞きに来てくれて、最後に拍手喝さいが起きた時は涙が出るほどに嬉しかったです！ 色々な人たちの協力のもとにこのプレゼンを実現する事が出来、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



また、「Gay pride」に参加したのも印象に残っています。このイベントは、虹色のマークを掲げながら人々が「私たちは自由なんだ！」と訴えながら行進するというものです。街中も虹色でカラフルに彩られていま

ま

した。

女性



の権利、同性婚の合法化など、近年ジェンダーについての議論は多様化しています。このイベントでもトランスジェンダーの人が中心となり、行進をしました。行進・・・といっても、昼間のライブみたいな感じで、大音量の音楽に合わせて歌ったり踊ったりしていました。それぞれが好きな格好をして、みんながみんな楽しそうで、本当に刺激的な1日でした。

6月はというと、本当にバタバタしていました。「しばらくの間のさよなら」を言うためにたくさんの友達と会う約束をし、毎日のように1日中外出していました。それと同時に荷造りもしなければいけません。部屋はしばらく散らかっていました(笑)。

友達とは会う約束はしてもその日何をするかは決めずに行くことが多



かったです。会ったらまず

「さあ、何をする？」「とりあ

えず歩かない？」と気のすむ

までお喋りしながらテキト

ーにプラプラし、疲れてきたら「どっか座らない？」

とよさげな芝生の上に座り、お腹が空いたら「なんか

食べよう」とお菓子を買って公園で太陽を楽しみなが

らピクニックをするか、カフェに入り話の続きをす



る・・・。この何とも言えない自由な時間が私は本当に大好きでした。



そんな私ですが最初から全部フランス語を理解できたわけではありません。留学当初は友達の話も、夕食時の家族の会話も、みんなが話していることがなかなか理解できませんでした。一対一での会話が理解できるようになってもグループにいる時の会話を理解するのは本当に難しく、5月になって apéro (食前のおやつのような軽い食事。『留学だより1』で説明しています!)の時の会話が分かるようになったときは本当に嬉しかったです。リスニングのためには、例えば散歩しているときとかにフランス語のラジオを聞いていましたが、一番大事なのはやはり理解しようと頑張る気持ちだと思います。ずっと聞くことに全神経を使うのは疲れますが、頑張って会話に耳を傾けていると次第に自分の中で何かが繋がってきます。

留学前は「授業をその場で理解できるようになりたい」と思っていたので、そのレベルまではたどり着くことはできませんでした。色々な人から「上達したね」とたくさん言われるようになり、フランス語での日常生活も慣れたので、今はここまで上達する事が出来て嬉しく思います。



そして、この留学中に私の中にあつたフランス人に対するイメージはがらりと変わりました。フランスに行く前は、フランス人に対して「街中では英語で話しかけても無視されるかフランス語で返されそう」とあまり親切的な印象が無かった=そう思い込んでいたのですが、それは全くの反対でした。



La photo de classe: 友達と「MEN IN BLACK」

確かに私達の親世代はそうかもしれませんが、今は英語をペラペラと喋れる人がたくさんいました。躊躇うことなく私と英語で話そうとしてくれる人が多かったです。そして何より皆優しい！フランス語が喋れなかった私を色々と助けてくれたり、一人でいる私に明るく話しかけてくれたり、街中でも例えば一人で買い物をしている困ったことがあると優しくしてくれたり。また、フランス人は「小さな幸せ」を見つける・楽しむ達人だということもを見つけました。時間を忘れて友達とたくさん話す、ただ太陽を楽しむ、新しいことをやってみる・・・毎日の日常生活も自分次第でより素敵なものに変えられるという事に気づかされました。私が好きなフランス語の expression で「C'est la vie, c'est comme ça.」(これが人生、こういうものさ)というものがあります。

これをみんなに言うと「え、こんなのが好きなの？」と微妙な反応が来るのですが、これは何かうまくいかない時に、おまじないのように1人でつぶやくことで、完璧主義だった私の肩の力をほぐしてくれました。こんな感じに、時々は何にか放り出すこともちゃっかり学びました笑。それで気づいたのです。私は知らない国の知らない人たちのことをどれほど自分勝手に定義していたのか、しているのか。学校での女子トークは日本で私が友達と話す話と内容はさほど変わりません。友達が悩んでいること、考えていることも「フランス人だから」といって私たちと全く違うわけではありません。



この留学は私の世界がいかに小さかったのかを気づかせてくれました。それと同時に世界にはまだまだ私の知らないことがたくさんあると、新しいことを知る嬉しさとたくさんのワクワクを私に与えてくれました。

このフランスで過ごした10か月は私の人生の中でかけがえのないものになりました。私のことを「見つけて」、10か月間受け入れてくれたホストファミリー。私をたくさんサポートしてくれた高校の先生方。くだらない話をたくさんしたけど、いつも一緒に笑っていてくれた友達。みんな優しく明るくて私をいつも笑顔にしてくれて、文化や言葉の違いがあっても真剣に私と向き合ってくれた、私の大好きな人たち。些細な一瞬一瞬が私にとっての宝物です。本当に感謝の気持ちしかありません。また近いうちに会えるのを願って……。

そして、私の留学をサポートしてくださった森村学園の皆さん、私にレポートを書くことを提案し、たくさんアドバイスをしてくださった松本先生、いつも応援してくれた友達、そして私の家族へ。本当にありがとうございました！



ホストファミリーとの最後の時間

最後に、みなさんにちょっとした紹介をしたいと思います！

フランスでは街中で全然知らない人と目が合った時、相手はいつも微笑みます。電車の中でも、街中でも、学校でも、いつも相手は私の事なんか何も知らないのにニコニコと微笑んでくるので

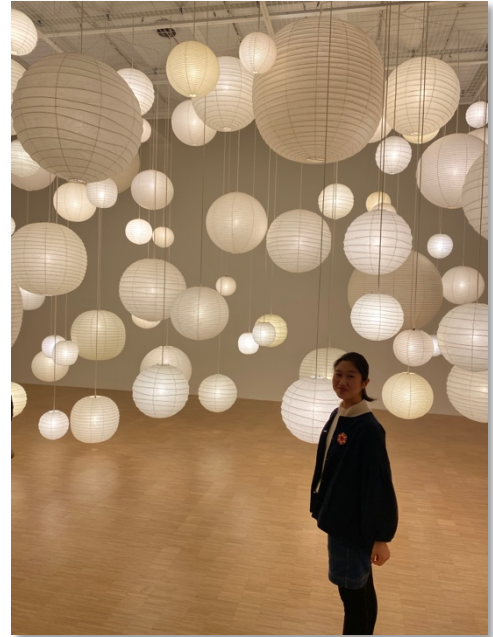
す。ですが日本に帰国後、街中で人々はスマホを見ていて驚くほど目が合いません。

この笑顔こそ、笑うことによって相手との雰囲気をややかにさせ、自分も穏やかな気持ちになります。だから私がもし学校内でこうしても皆さんも微笑み返してくれると嬉しいです😊

さて、これで私の最後の留学レポートになりますが、皆さん、楽しんでもらえましたでしょうか？ フランスや留学に少しでも興味をもってもらえたでしょうか？ 少しでも皆さんの日常にこの留学レポートが新鮮さを与えるものであったことを祈っています。

今まで読んでくださりありがとうございました！

大屋あかり



Isamu Noguchi 展の作品
«Akari」とあかり